



研究テーマ

1 地域医療の疫学的評価

2 化学物質の生体影響

研究概要

公衆衛生学が対応する範囲には、地域医療、産業保健、成人保健、高齢者保健等がある。当該教室は地域医療および産業保健に力点を置き、地域住民の健康維持および労働者の安全と健康保持、増進について研究を行なっている。具体的には、1) 地域医療における種々の問題について、疫学的手法を使用し、分析し、問題解決の知見を得る。2) 就業現場で使用される化学物質の毒性について研究し、安全な職場環境を構築する。ことを目的に日々調査と研究を行なっている。

黒田 嘉紀



くろだ よしき

医学部
医学科
社会医学講座
公衆衛生学分野

教授

キーワード

地域保健
産業保健
化学物質の毒性

特許情報・
共同研究・
応用分野など

1 地域医療の疫学的評価

- ① 地域医療の問題について、多方面から資料を収集し、分析し、問題となる事項の原因を探求する。それをもって有効な対策を提案する。現在、我々は宮崎県下の自治体と協力し、自治体の所有する資料から、地域医療に関する資料を収集し、分析している。その知見をもとに、地域住民の健康維持・増進に資する方策を検討、提案中である。
- ② 自治体には多くの資料が蓄積されているが、それを分析し、知見を得ることのスキルが備わっているとは限らない。当該教室では、これらの資料を分析し、有用な知見を得て、自治体を含む社会に還元している。
- ③ 資料の蓄積があっても、それを分析、統合することができないと活用することは難しい。我々は多くの経験から、ビッグデータの処理法に精通しており、資料整理、分析方法を社会に提供できる。

2 化学物質の生体影響

- ① 就業現場では多くの化学物質が使用されている。化学物質の急性毒性は、把握されているが、慢性毒性については十分把握されているとは言えない。特に免疫毒性についての検討は不十分である。そこで当該教室では、化学物質の免疫毒性について研究している。
- ② 化学物質の免疫毒性についての研究は少なく独創的であり、その方法は現在研究している以外の化学物質にも応用できる。特に就業現場で頻用されている鉱物油についての知見は豊富である。
- ③ 慢性毒性(免疫学的影響)を研究することで、就業現場における化学物質使用者の健康管理、災害予防に役立つ情報が得られる。

ホームページ

<http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/home/ph/>

技術相談に応じられる関連分野

疫学、統計学を活用したデータ分析
化学物質の毒性調査およびその対策策定

メッセージ

当該教室は以下の項目について積極的にサポートしたい。

- 1) 自治体が所有する地域医療に関する資料分析
- 2) 労働災害予防のための対策策定(化学物質以外の労働災害にも対応)